DocuSign Bot

DocuSign - トークンの生成と更新

© HelpSystems LLC. All rights reserved.
All trademarks and registered trademarks are the property of their respective owners.

目次

概要 3
必要条件 4
AUTOMATE タスクのインポート方法 8
「DOCUSIGN - トークンの生成と更新」の実行方法 9
付録 A – トラブルシューティング 12

概要

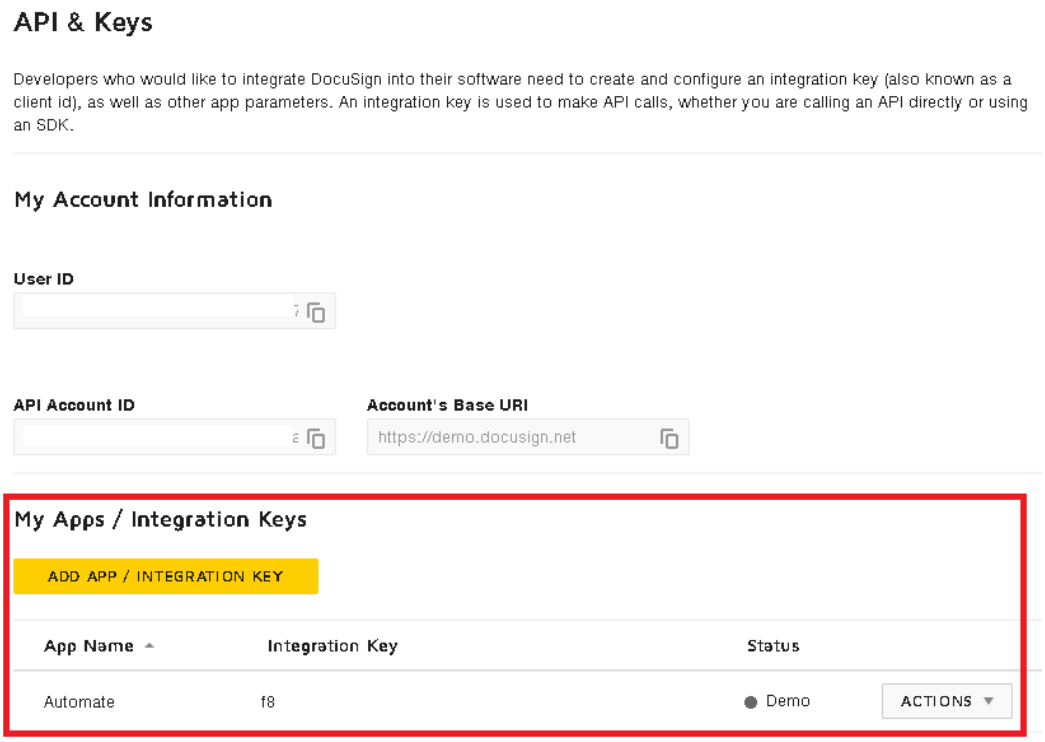
この How to ガイドでは、「DOCUSIGN - トークンの生成と更新」をご紹介します。繰り返しの多い手作業に貴重な時間とリソースを費やす代わりに AutoMate に任せて、RPA による自動化で IT とビジネスプロセスを合理化しましょう。AutoMate の支援により、ボットが手作業を代行することで反復作業を大幅に減らし、作業の品質と一貫性を向上させることができます。自動化されている主なプロセスは、レポート作成、ファイル移動、データのインポートとエクスポート、バッチ処理のスケジューリングです。

「DOCUSIGN - トークンの生成と更新」は、**DocuSign OAuth Authorization Code Workflow** をベースにしています。DocuSign が提供する URL に対して **OAuth2** アクセストークンのリクエスト「**/oauth/token** 」を実行するものです。初回のトークン生成には、「**authorization_code**」（認可コード・ワークフロー）タイプの 「grant_type 」パラメータを使用します。ボットの最初の実行でトークンが生成されると、次の実行でトークンをリフレッシュするために、「grant_type」 に「**refresh_token**」 を指定します。トークンの有効期限は、デフォルトで8時間です。トークンを日常的に使用し、DocuSign Bot を動作させるには、この Bot の動作を分析し、ニーズに合わせて実行を設定することをお勧めします。

詳細については、「必要条件」と「DocuSign BOT-トークンの生成と更新の実行方法」のセクションをよくお読みください。

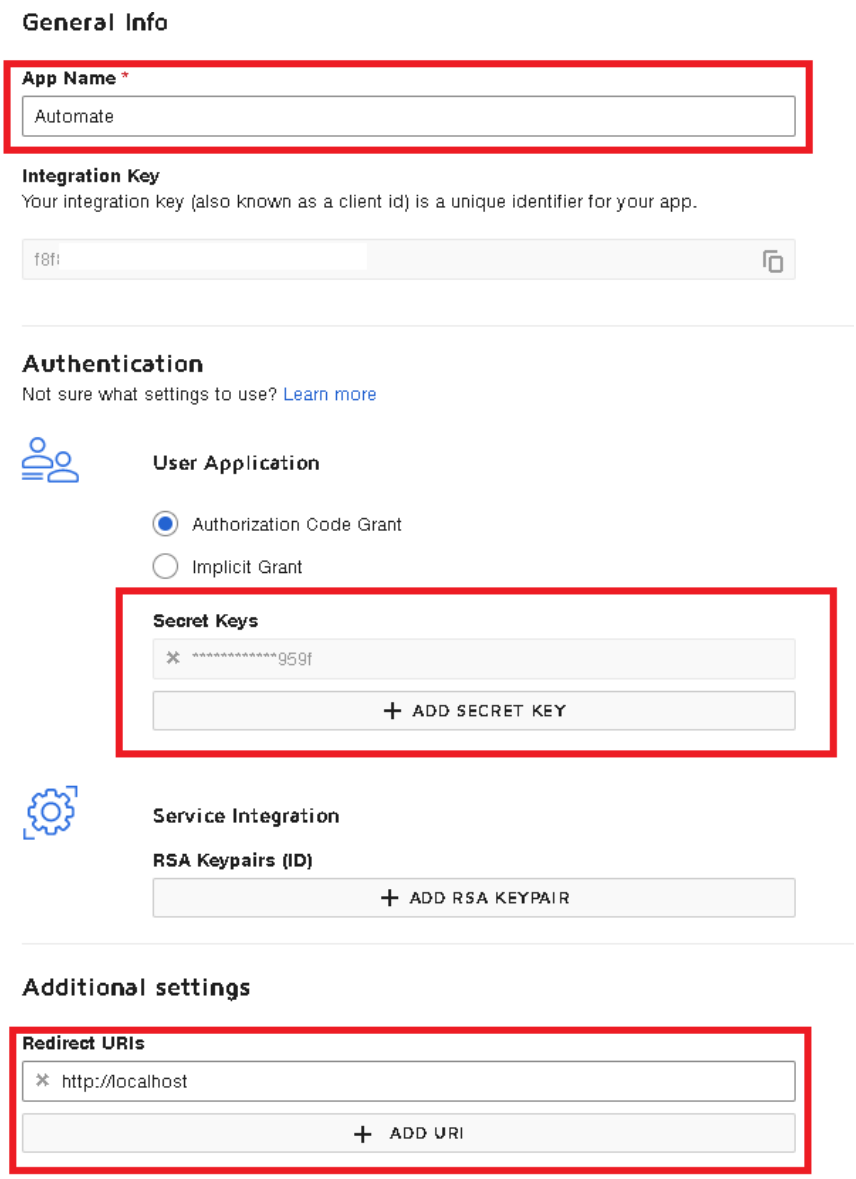
必要条件

- AutoMate: DocuSign ボットは動作に AutoMate を必要とします。最低限サポートされているバージョンが以下の通りです:
    - AutoMate Ultimate 11.2
    - AutoMate Plus 11.2
    - AutoMate Desktop 11.2
- AutoMate Markup Language file (.AML): DocuSign ボットタスクのステップを含む AutoMate で使用される主要なファイル形式
- DocuSign Graph: 最低限必要なものは以下の通りです
    - DocuSign eSignature API & Keys セクションでアプリケーションの作成: トークン作成のための適切なスコープとリクエストを設定し、他の DocuSign Bots の接続に使用できるようにするには、DocuSign プラットフォーム内にアプリケーションを作成する必要があります。 ADMIN エリア > INTEGRATIONS > API and Keys セクションで確認することができます。



管理者（DS Admin）である必要がありますので、権限がない場合は、DocuSign の管理者にご確認ください。アプリの作成方法の詳細については、こちらをご覧ください。

- OAuth Authorization Code Workflow をサポートするようにアプリケーションの設定: アプリケーションの設定画面で、アプリケーション名を設定し、認証方法を「User Application > Authorization Code Grant」に設定します。Secret Key を作成し、安全に保存します。ボットの設定には、この値とインテグレーションキー（クライアント ID）が必要です。認証コード付与のワークフローについては、こちらをご覧ください。リダイレクト URL を忘れずに設定してください。



- 初回実行時の認証コード: アプリケーションを作成し、設定した後、ボットの初回実行に必要な認証コードを取得することができるようになります。そのためには、ブラウザでパーソナライズされた URL（**##CLIENT_ID##**を自分のものに変更）を開く必要があり、ブラウザのアドレスバーに認証コードが表示されます。URL には、必要な**スコープ**とリダイレクト URI を指定する必要があることに注意してください。この例では、scope は「**signature**」と「**offline_acces**」です。必要に応じて、他のスコープを追加することもで

きます。ログイン情報を入力し、リクエストを許可すると、ブラウザのアドレスバーに Auth Code が表示されます。***このコードは、ログイン時に提供されたユーザー名と、Auth Code で生成されたトークンに関連付けられることを留意してください。***つまり、この認証コードを使用して生成されたトークンは、このユーザー名と関連づけられることになります。

次に、リクエスト URL の例を Acceptance Window に表示します。以下はコードの取得方法です:

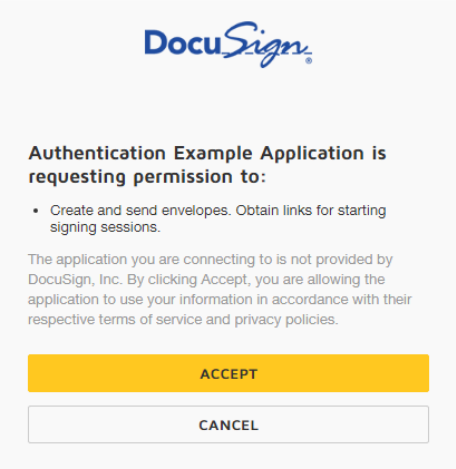
リクエスト URL:

https://DocuSignAuthURL?response_type=code&scope=offline_access%20signature&client_id=##CLIENT_ID##&redirect_uri=http://localhost

DocuSign Auth の URL は、以下のようになります:

- https://account-d.docusign.com/oauth/auth　　*デモ用プラットフォーム*
- https://account.docusign.com/oauth/auth　　*製品用プラットフォーム*

Acceptance Window:



Authorization Code:

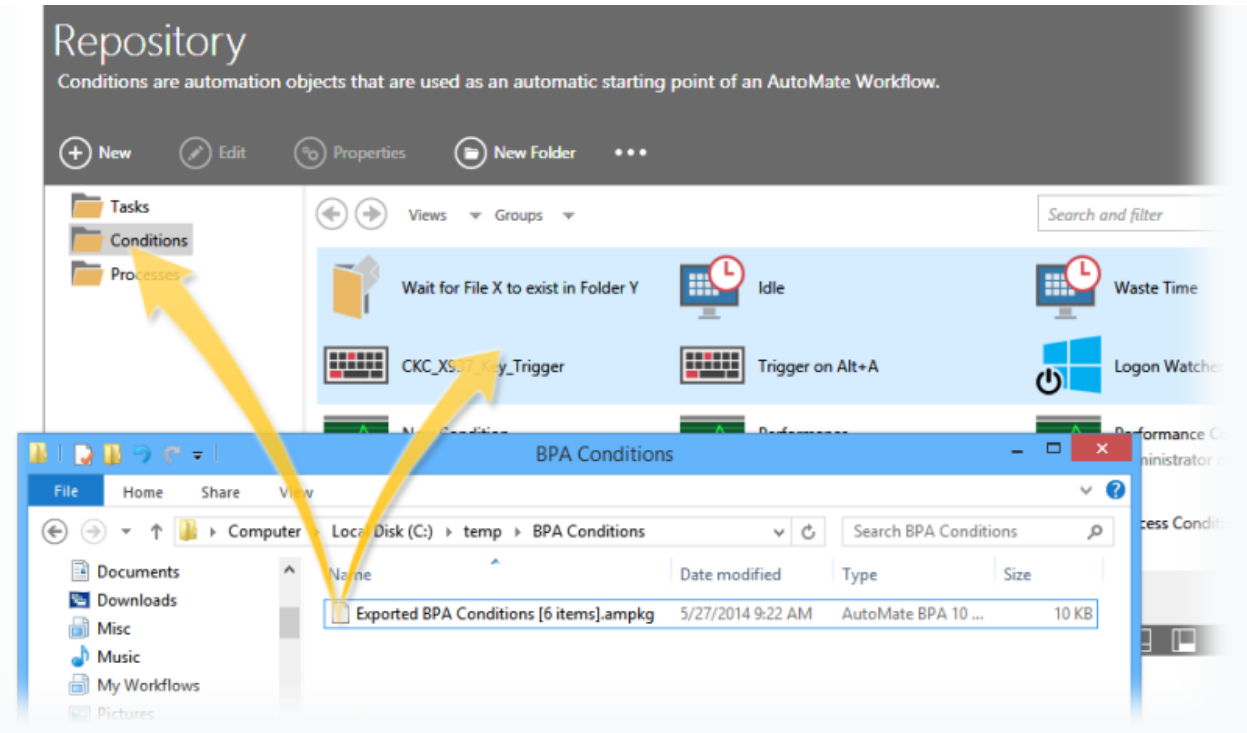
```
http://example.com/callback/?code=eyJ0eXAi.....81QFsje43QVZ_gw&state=a39fh23hnf23
```

AUTOMATE タスクのインポート方法

互換性のあるファイル形式は、ドラッグ&ドロップでレポジトリに取り込むことができます。

サーバー管理コンソールから[レポジトリ]セクションに移動します。

目的のファイルを元の場所からドラッグして、SMC 内のフォルダにドロップします。ファイルは、フォルダーアイコンまたはメインパネルにドロップすることができます（下図参照）。インポートされたオブジェクトは、自動的に対応するリポジトリの場所に配置されます。

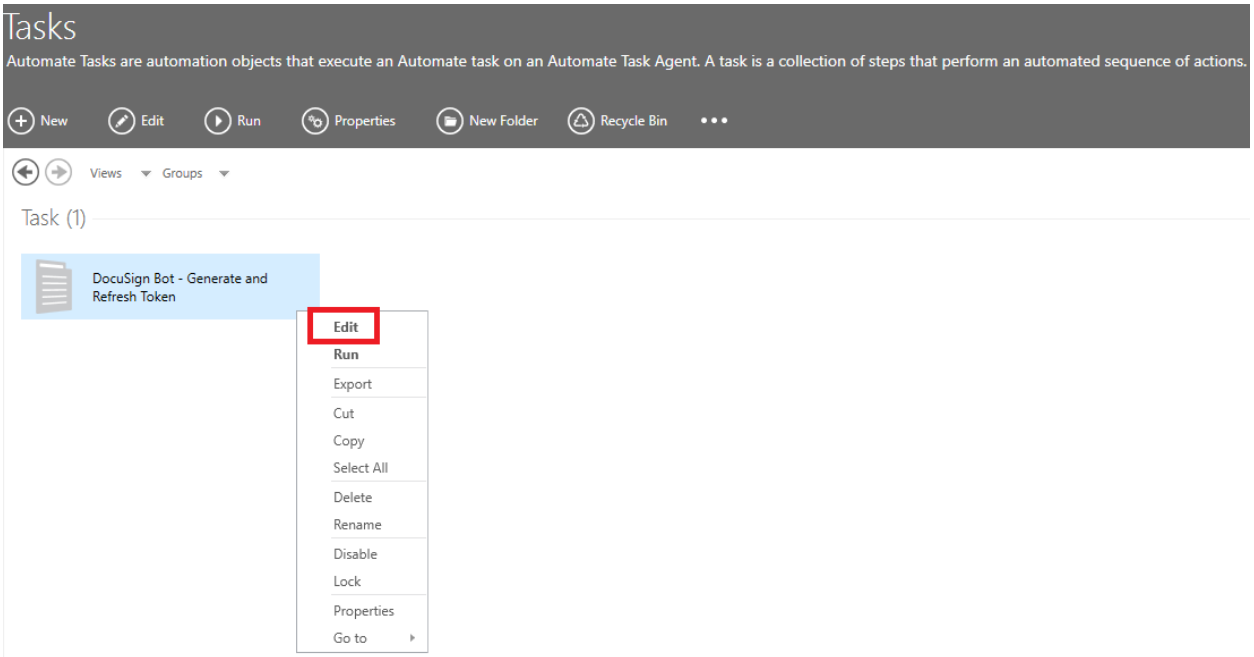


「DOCUSIGN - トークンの生成と更新」の実行方法

このタスクを初めて実行する場合、いくつかのパラメータを設定する必要があります。

サーバー管理コンソールを開き、インポートしたタスクを探します。

インポートしたタスクを右クリックし、「編集」を選択して編集します。



ステップ2からは、次の変数をご希望の出力に合わせて編集してください。

- var_GetTokenURL: DocuSign Token を要求するために使用される URL です。DocuSign が提供するデフォルトの URL に設定されています:
  - https://account-d.docusign.com/oauth/token　*デモ用プラットフォーム*
  - https://account.docusign.com/oauth/token　*製品用プラットフォーム*
- var_AuthCode: DocuSign が提供するステップバイステップの Authorization Code です（前提条件に記載されています）。トークンやリフレッシュトークンが存在しない初回実行時にのみ使用されます。
- var_RedirectUri: リダイレクト先の URL。デフォルトでは、https://localhost に設定されています。ボット操作自体にはこの値はあまり必要ありませんが、必要不可欠な変数です。

- var_ClientId: この **ID** はアプリに固有のもので、OAuth を開始するために使用されます。Adobe Sign では Application Integration Key と呼ばれます。
- var_ClientSecret: 作成した Adobe Sign アプリ内で生成された**クライアントシークレット**になります。
- var_TokenFileOutput: トークンおよびトークンリフレッシュ文字列が生成されたテキストファイルをボットに作成させるためのパスとファイル名になります。デフォルトは以下の通りです。

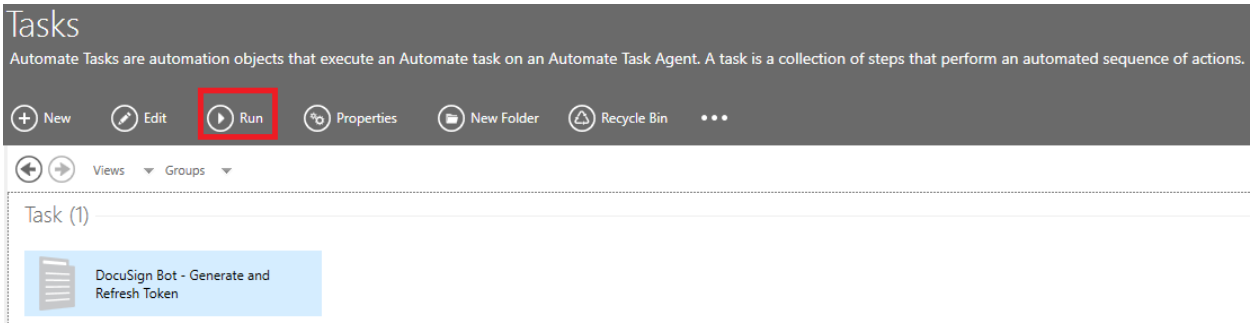
C:\Automate\DocuSignToken.txt

以下は、生成されるテキストファイルの内容の一例です。

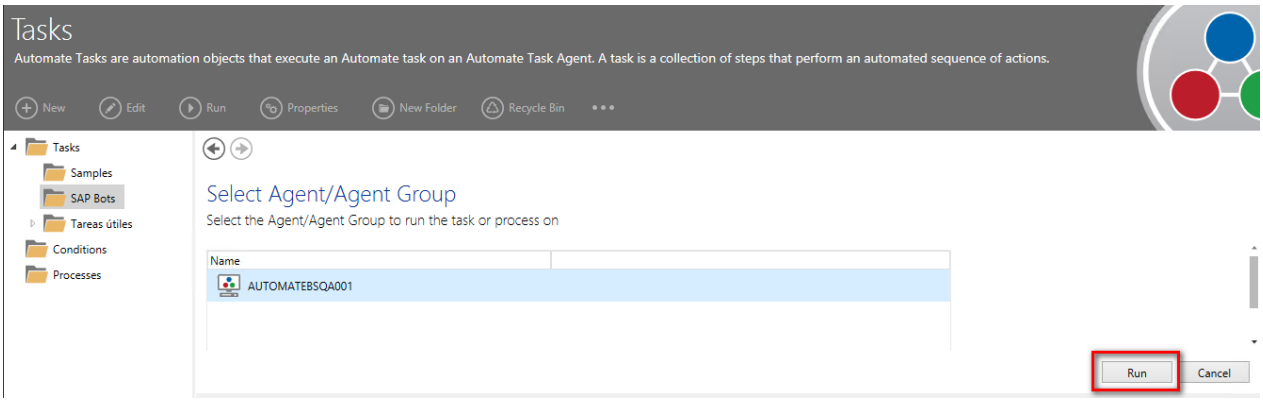
重要: **Authorization Code** を変更した場合、最初のボット実行前にこのファイルを削除します。

タスクを保存して閉じる

タスクを選択し、「実行」をクリック



エージェントを選択し、再度「実行」をクリックします。



付録 A – トラブルシューティング

- ログ: 実行毎に、トラブルシューティングのためボットはログファイルを作成します。 ログファイルは C:\Automate\Tasks\<<TASK NAME>>に保存されます。デフォルトでは、タスク名は *DocuSign Bot - Generate and Refresh Token* です。

www.helpsystems.com

About HelpSystems
Organizations around the world rely on HelpSystems to make IT lives easier and keep business running smoothly. Our software and services monitor and Automate processes, encrypt and secure data, and provide easy access to the information people